

はじめに

2010年度(平成22年度)札幌市衛生研究所において行われた業務概要についてご報告いたします。

2010年度を振り返りますと、年度末を控えた3月11日午後2時46分、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の大地震、東日本大震災が発生いたしました。青森県・岩手県・宮城県・福島県などの東北地方太平洋沿岸は、地震・津波による甚大な被害を受けただけでなく、さらには津波による被害を受けた福島第一原子力発電所の原子炉の冷却機能がダウンする等、三重の災害が重なり、約半年が経過した現在も放射性物質の放出は完全には止まらず、その後も收拾のための対策が各方面から全力でなされているところです。

この原発事故のその後の影響は、東北地方だけにとどまらず、関東から東海地方など東日本一円に及び、農畜産物・土壌・下水汚泥等、国民生活全般に深刻な影響を及ぼしており、当衛生研究所では、新年度に入っても、様々な検体に対する放射性物質の測定に携わることで市民の皆様の安心の確保に努めてきたところです。

また、大震災に関連した以外の通常の業務につきましては、調査研究事業等、当初の計画どおり実施されており、さらには、市民向け広報誌「ぱぶりっくへるす」の発行、近隣の小学生を対象とした実験教室の実施、衛研ホームページでの市民への積極的な情報提供を行う等、所内で行われている業務について広く知っていただく活動に努めてまいりました。詳細については誌面をご覧ください。

当衛生研究所は、札幌市が保健・環境衛生行政を進めていく上で、科学的根拠を提供する技術的中核機関として位置づけられております。今後もこの機能を強化していくためには、日頃の研鑽はもとより、全国の地方衛生研究所・地方環境研究所とのネットワークの強化を今後とも継続して構築してゆく重要性を強く感じております。今後とも、ご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

2011年9月

札幌市衛生研究所長

三觜 雄